

野 田 九条通信

2012年6月 78号

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ

<http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/>

憲法が危ない！

九条の会発足8周年学習会に行こう！

日時 6月9日(土)

13時30分～16時30分

場所 韓国YMCA (JR水道橋駅10分)

講演

◎ 浦田一郎 (明治大学)

「九条をめぐる動きと政府の憲法解釈」
- 米軍基地、武器輸出、国会の憲法論議

◎ 明田川 融 (法政大学)

「九条、『同盟』、沖縄の相関」

参加費 1,000円

大江健三郎さんや澤地久恵さんなどが呼びかけて作られた「九条の会」。今年8周年を迎えます。憲法第九条を変え戦争ができる国にしようとする動きに対し、九条の会が各地で憲法を変えようの声を上げて来たことは、効果があったといえるでしょう。しかし大震災、原発事故に目が行っている間に、自民党、みんなの党、国民新党などが次々改憲案を発表、改憲への動きが加速しています。九条の会8周年学習会「九条をめぐる動きは、いま」が開かれます。野田九条の会は6月定例会を延期して、この学習会に参加します。300人の会場で先着順ということですが、1時間前より30分前には入場したものです。行かれる方は事務局までご連絡ください。(7129-4297 田口)

今年も盛大に開催「平和のつどい、のだ」

未来、このままでもいいじょうぶ？

今年で6回目を迎える野田の平和のための戦争展、8月18・19日の二日間の開催に向けて準備が進んでいます。18日には前広島市長の秋葉忠利さんを迎え、核兵器廃絶に向けて平和市長会議と市民の役割について講演をお願いする。平和市長会議には野田市長も2010年に参加登録している。「国」ではなく地球市民として自治体という地域から平和を作っていく意味を生で聞けるいい機会です。19日には浜岡原発集団訴訟の弁護士河合裕之さんに原発と憲法について講演の後「ぶっちゃけトーク」にも参加していただく予定です。そのほか朗読劇、歌声喫茶、戦争体験のおはなし、展示の数々、盛りだくさんに考えています。いまから予定を開けておいてください。

今月の予定

6月10日(日) 2時～

上映会「原子力戦争」原作：田原総一朗

南部梅郷公民館 主催：野田南地域九条の会

6月16日(土) 九条の会定例会

午後1時30分～ 樺のホール4階研修室

6月16日(土) チラシ配布

午後4時～5時 川間駅南口

6月30日(土) 平和のつどい実行委員会

午後1時半～ 中央公民館2階講座室



昨年高校生も参加した

ぶっちゃけトーク

憲法と原発と沖縄と

最近、なぜか急速に憲法を改定しようという動きが多くなってきました。自民党は党としての改憲案を発表するし、雨後の竹の子のように増えた少数政党のほとんどは改憲を打ち出しています。民主党は、これまで憲法に違反するとされてきた武器輸出三原則を緩和して武器の輸出、外国との共同開発、技術の供与などを解禁したり、派兵恒久法を策したりといった憲法違反を実行している有様です。

◆ いま人々が苦しんでいること

現在、人々が何に苦しみ不安の中で暮らしているかといえば、大震災の復興は遅々として進まず、家を失い、家族を亡くし、生業ができなくなってしまった状態。また原発事故による放射能汚染の影響におびえる日々であることは言うまでもありません。こういう時に何故改憲を策したり、戦争を肯定するような施策に力を注いでいるのでしょうか。

戦争も原発も、共通する悪ではないでしょうか。

戦争は人と人との殺し合いであり、原発は人の命と健康を左右し、何万年にも及ぶ未来にまで消滅させる事ができない放射性物質を残します。使用済み核燃料からは原爆を造るプルトニウムもとれます。その原発を再稼働させようと政府はしています。国民の代表であるはずの政府は、憲法精神である平和と安全と幸福追求とは真逆な政治を行っていると思われません。

◆ 私たちは日本国憲法に守られてきた

敗戦後2年目に、15年間に亘った残酷悲惨な侵略戦争への反省から、新しい憲法ができて以来、私たちは平和憲法に守られ、1度も戦争をすることなく平和に過ご

すことができました。アメリカがベトナムを無法に侵略し、枯葉剤まで撒いて人々を苦しめた時も、イラクが核兵器を隠し持っているを邪推して攻め込み、かの国をメチャクチャに破壊した時も、その手下になることをかろうじてまぬかれ得たのは、この憲法のお蔭でした。

今、政権と財界が組んで、軍需と儲けのために、武器を造り、原発を推進しようとしているのは、全く反省のない悪の繰り返しというべきでしょう。

67年前、米国との戦争に負けて降服してからこのかた、頭が上がらなくなってしまった日本は、基地にしる、ミサイルにしる、戦闘機にしる、アメリカの戦略のまま反撥できずに従っていて、そのために憲法まで変えようというのでしょうか。

◆ 人々の苦難が意識を変える

基地といえばすぐ頭に浮かぶのは、沖縄です。沖縄は戦争中も戦後も一番ひどく戦争の犠牲になり続けました。1972年に本土復帰しましたが「核抜き、本土なみ」のうたい文句は守られずむしろ以前より増えて、40年経つ現在まで在日米軍基地の75%をかかえています。多くの事故や事件、日常の轟音に悩まされています。沖縄の人々は「同じ日本なのに差別されている」と考えています。無理もありません。

東日本大震災のあと、人々の意識は変わったと言われています。絆を大切にし、人に優しくなったと。ですからもう一歩進めて沖縄にも想いを馳せ、沖縄から、つまりは日本から米軍基地をなくすために何かしら出来ることを致しましょう。

憲法への恩返しのためにもー。

(森本房子記)